

<小学校 生活科>

地域に愛着をもつ児童の育成をめざして

ー地域の人々との主体的なかかわりを通してー

南風原町立南風原小学校教諭 与那嶺 永 子

内容要約

地域に愛着をもつ児童の育成を図るため、地域のよさに気付くことができるような学習活動展開の工夫と、適切な支援を行うための評価の工夫を試みた。

児童の思いや願いを生かした活動を取り入れることで、児童は意欲的に学習に取り組むようになった。また、地域の人々とのかかわり合いを通して地域の人々のすばらしさや優しさ、温かさに触れることができ、地域への愛着が芽生えてきた。

【キーワード】 地域人材 人とのかかわり 意欲的 支援 評価の工夫

目 次

I	テーマ設定の理由	11
II	研究仮説	11
III	研究内容	12
1	主体的にかかわらせるための手立て	12
2	地域に愛着をもたせるための手立て	15
IV	授業実践	16
1	単元名	16
2	単元設定の理由	16
3	単元の指導目標	17
4	本単元で育てたい児童像	17
5	関連教科の構造図	17
6	活動計画	18
7	本時の指導計画	19
8	児童がかかわった名人	19
9	実践を終えて	20
V	研究の成果と今後の課題	20

<小学校 生活科>

地域に愛着をもつ児童の育成をめざして

—地域の人々との主体的なかかわりを通して—

南風原町立南風原小学校教諭 与那嶺 永 子

I テーマ設定の理由

国際化、情報化が進む中、少子高齢化社会、地域社会の連帯感の希薄化など、児童をとり巻く社会環境は大きく変化し、児童にあっては体験不足、自立の遅れなどの様々な問題が指摘された。このような状況に応じるために、学習指導要領の改訂に伴い、生活科では、従来のねらいは維持しながら児童が身近な人や社会、自然と直接かかわる活動や体験をより一層重視する方向で改善された。

目標の改善点として、特に身近な人々とのかかわりを重視し、児童が直接かかわる対象として、新たに「人々」が加えられた。また、地域とのかかわりに一層重視し、「自分たちの地域に愛着をもつことができるようにする」ことが新たに示された。これまでも人とのかかわりは大切にされてきたが、人間関係の希薄化が問題となっている今日、自分と身近な人々とのかかわりに関心を持つことが一層重要視された。多様な人々と触れ合う学習活動の展開の工夫と、人とかかわり合いながら学ぶという学習方法を身につけさせることが求められている。

本学級の児童は、帰宅後はおけいごとや塾通い、また、家の中でテレビを見たり、テレビゲームなどをして過ごしている児童が多く、友達との遊びは少ない。また、祖父母と同居している児童はクラスの17%で一人っ子が25%もいるなど、核家族や少子家庭のため、人とのかかわり合いも乏しいようである。それからクラスの75%の父母が他の市町村の出身で、地域のことについてよく知らない親も多い。そのためか地域に関心を示す子が少ない。

生活科は地域に根ざした教科であり、「心のふるさと」づくりであると言われている。心のふるさとづくりをするためには、地域の人々や様々な場所と意識的にかかわらせ、地域に魅力を感じさせることが必要である。二年生の生活科は、一年生に学校のことを教えてあげることからスタートし、活動の空間を地域へ広げていく。従来、地域へとび出での活動は一回きりであったが、年間指導計画を見直し、地域とくり返しかわれるように、「南風原町大すきII」の単元を設定し、探検のシリーズ化を試みたい。

一学期の探検活動では児童の思いや願いを生かし、地域の公共施設や場所、そしてそこで働く人とのかかわりを中心に活動が展開された。どの児童も意欲的に活動し、様々な気づきがあり「また探検したい」の声が多かった。一方、自分の思いを相手に十分伝えられないなど、コミュニケーションがうまくいかない児童もいた。場所と人が一体となったとき、地域への親しみがわき、より一層地域に対する愛着を深めることになると思う。

そこで今回は、地域の名人とかかわる活動を通して地域の人々のよさに気づかせ、地域がますます好きになるようにすると共に、人と適切に接することができる児童に育てたい。また、他教科等との合科・関連を図り、ゆとりのある学習活動計画の工夫、さらに、児童が主体的に地域人材を発掘し、継続したかかわりが持てるようにしたい。

地域人材を活用し、地域にくり返しかわらせる中で、地域のよさを見つけさせる支援をすれば、地域により一層愛着がもてるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

身近な人々とかかわる活動において、地域にくり返しかわらせる活動を行い、地域の人々と触れ合うよさや楽しさを味わわせれば、より一層地域へ親しみや愛着をもつであろう。

Ⅲ 研究内容

1 主体的にかかわらせるための手立て

主体的にかかわるとは、児童が自ら対象物に積極的に働きかけることである。

自らの意志で活動する児童の瞳は輝き、表情が豊かになる。それと同時に好奇心に満ち溢れ、見るもの、聞くもの、肌で感じるものなどに敏感になってくる。そうなることで活動しているなかから児童が自分の力で課題を見つけ、「やってみたい」という意欲が湧き、次の活動が生み出されていくことになる。ここでかかわる対象物は地域の人々（名人）である。

(1) 名人と主体的にかかわらせるための手立て

① 名人は児童に見つけさせるようにする。

主体的にかかわらせるためには、やる気を持たせる活動でなければならない。そのためにはより身近な人とかかわらせる必要がある。そこで名人はできるだけ児童に見つけさせるようにする。児童の思いや願いを生かした名人を訪ねることで名人がより身近に感じられ、名人と意欲的にかかわるのではないかと考える。

② 児童一人一人の思いや願いが実現できるようにする。

できるだけ多くの名人を見つけ、児童一人一人の思いや願いに対応できるようにする。また、一人一人の意欲を大切に活動の場や時間を保障する。

③ 自己決定のもとで活動が行えるようにする。

自己決定能力は、生活科のなかで最も大切にしたいものの一つである。様々な活動のなかに児童自身が自分の意志で選ぶ場面を意図的に設定する必要がある。

名人を訪ねる相談をする活動では、訪ねたい名人は自己決定のもとで行われるようにし、同一グループで名人を訪ねる計画を立てさせる。自己決定をさせることで活動に意欲的に取り組むようになると考える。

④ 場に応じた適切な行動ができるようにする。

名人と主体的にかかわらせるためには、あいさつの仕方、丁寧な言葉遣い、自分の思いが十分に伝えられるなど、人とのかわり方が上手でなければならない。本単元では道徳との合科的指導を図ったり、朝の会、帰りの会等で探検の仕方の話し合いや実演などの指導を通して、名人と適切にかかわれるようにする。

⑤ 児童一人一人にめあてをしっかりと持たせる。

主体的な活動が行われるためには、児童一人一人にめあてをしっかりと持たせることである。めあてをもつことによって、何をどうすればよいのかがわかり、進んで活動に取り組むようになる。

名人をたずねる活動においては、名人と主体的にかかわれるよう活動前に「見たいこと」「聞きたいこと」「教えてもらいたいこと」などをワークシートに書かせておく。

(2) 単元全体を通して主体的に取り組ませるための工夫

① 児童の思いや願いを大切に学習過程

- ・児童の意識の流れを大切にする。
- ・児童一人一人の思いや願いに対応できる学習材を準備する。
- ・「よかったよカード」を活用し、友だちから自分のよさを教えてもらうことで児童の内面を共感的に捉え、自信と意欲をもたせる。
- ・紙芝居、ペープサート、クイズ、新聞、動作化など多様な表現方法を取り入れることでその子なりの表現活動を促し、豊かな表現力を高める。
- ・児童一人一人の思いや願いが具体的な活動、体験として実現できるような場と時間を確保する。

② 児童一人一人に応じた評価と支援

児童一人一人の活動を存分に引き出すためには、個に応じた支援が大切である。個々の児童の特

性は行動や体験の内容や形態によってその現れ方に違いがあり、生活科の授業においては個別に支援する場が多い。

支援を適切に行うためには、児童の活動の様子やつぶやき等から、児童の良い面や児童が当面している課題を教師が見取ることが大切であり、何らかの記録によって把握していく必要がある。そこで指導と評価を一体化し、次の支援に生かせるような評価を行うことが重要である。また、単元全体を通して継続的に児童の意欲や活動それに伴った変容などをとらえていくことも大切である。

評価をより客観的に行うためには、事前に評価計画を立て、観点別学習状況においては具体的な評価基準を設定することが不可欠である。さらに適切な支援を行うためには、児童一人一人の実態活動の様子、変容が見取れるような評価記録個人カードを作成すると便利である。

本研究では評価基準を盛り込んだ評価計画（表1）、評価記録個人カード（表2）、観点別評価一覧表（表3）、さらに校外学習においては、教育支援ボランティアの方が気付いたことがメモできるような気付きメモカード（表4）を作成する。教師が適切な支援を行うことで、具体的な活動や体験のなかで子どもが輝く場が多くなり、賞賛され、子どもの自信となり、学習に対して意欲的にかかわっていくのではないかと考える。

表1 評価計画（名人たんけん）

評価場面 （方法）	評価規準 （評価項目）	評 価 基 準		
		十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要する（C）
名人を見つける場面 （発表・つぶやき ワークシート）	- 自分の地域に住んでいる名人を進んで見つけることができる。 （関心・意欲・態度） - 地域にはいろいろな名人がいることに気付くことができる。 （気付き）	- 家の人から聞いたりして、積極的に名人を見つけ、発表することができる。 - 地域には様々な名人がいることに気づくことができる。	- 友達の発表を聞いて自分も名人を見つけようとする。 - 友達の発表を聞き、名人がいることに気づくことができる。	- 友達の発表を聞くことができる。 - 友達の発表を聞くことができる。
名人をたずねるそう だんをする場面 （観察・つぶやき ワークシート）	- 意欲的にたずねたい名人や探検コースを決めることができる。 （関心・意欲・態度） - 友達と協力して探検の準備をすることができる。 （思考・表現）	- 名人探検に関心を持ち、自分の思いでたずねたい名人を決めることができる。 - 友達と協力して進んで探検の準備をすることができる。	- 友達と相談してたずねる名人を決めることができる。 - 友達と協力して探検の準備をすることができる。	- 先生と相談してたずねる名人を決めることができる。 - 友達に言われて探検の準備をすることができる。
名人をたずねる場面 （チェックリスト ワークシート 聞き込み・日記 よかったよカード）	あいさつをしたり、必要なことを話したり、聞いたりして進んで名人とかかわることができる。 （関心・意欲・態度）	名人と気持ちよく応対ができる。	気遣いながら名人と応対ができる。	友達の助けをかりて名人と応対ができる。
はっぴょう会の準備 をする場面 （観察・つぶやき 作品）	名人に教えてもらったことを友達と協力し、工夫して表現することができる。 （思考・表現）	表現の仕方を選択し工夫してまとめることができる。	わからない所を先生や友達に聞いたりしながら、まとめることができる。	友達の良いところをまねて、発表会の準備ができる。
はっぴょう会での場 面 （発表・日記）	- 自分の思いを自分なりの方法で発表することができる。 （思考・表現） - 町にいろいろな名人がいることから、はっぴょうのよさに気付くことができる。 （気付き） - 友達のよさに気付くことができる。 （気付き）	- 大きな声でわかりやすく発表することができる。 - はっぴょうを聞いて、名人のよさに気付くことができる。 - 友達の発表を聞いて友達のよさに気付くことができる。	- 最後まで発表することができる。 - いろいろな名人がいることに気付くことができる。 - 友達の作品のよさに気付くことができる。	- 友達の助けをかりて、発表することができる。 - 南風原町町に関心を持つことができる。 - たずねられることによって、友達のよさに気付くことができ
お礼をする場面 （つぶやき・発表 ワークシート）	お世話になった名人に感謝の気持ちを伝えることができる。 （思考・表現）	名人に対する感謝の気持ちを、ていねいに伝えることができる。	名人に感謝の気持ちを伝えることができる。	名人に感謝の気持ちを言うことができる。

表2 評価記録個人カード

単元名		はえばる町大すぎⅡ（名人たんけん）		名前（ Tさん ）
児童の実態	明るく活潑な子である。友達とのかかわり合いは上手である。 生活科は好きでない、地域も好きでないと言う。地域の人とのかかわりが乏しいようである。			
評価場面 （方法）	評価基準 （評価項目）	児童の様子		教師の支援
名人を見つける場面 （発表・つづやき ワークシート）	自分の地域に住んでいる名人を進んで見つけることができる。 （関心・意欲・態度）	C 地域の人のことがよくわからないと何度もつぶやいている。ためいきばかりついて授業に乗ってこない。時々さめた様子が見られる		知らなくても大丈夫よ。わかるお友だちに教えてもらおうねと言うと、にっこりして安心した様子であった。
① ②	地域にはいろいろな名人がいることに気付くことができる。 （気付き）	B 友達の発表を聞いて名人のことが少しわかったよと言った。		友達の発表を聞いてみようねと声をかけたら集中して聞いていた。ほくにも名人見つかるかなと言いつづやいた。
児童の変容	学習前は自分が住んでいる地域は好きでないと言っていたTさんだったが、空手名人と出会い、空手を教えてもらってとてもうれしかったと話した。名人さんの空手はかっこよかったと感動していた。名人はとても優しくてまた探検をしたいと学習にも意欲的になってきた。			

表3 観点別評価一覧表

(男子)

単元名		名人たんけん										
評価項目		関心・意欲・態度			思考・表現				気付き			
番号	評価 規 準	るを 進分 の地 域に 住ん でい る名 人	る換 意欲 的に た決 めね る名 人	るで を話 しな か わい たり 必 要な こと と	す友 達と 協 力し て探 検の 準備 を	る友 達と が力 で工 夫し て表 現す	で自 分の 思 い を自 分 な り の 方 法	気お 持世 話に な え る 名 人 が に で 感 謝 の	る地 域に は 気 付 ろ く い ろ な 名 人 が い	付と くか ら い は る な 名 人 が い る こ	で友 だ ち の よ さ に 気 づ く こ と が	
	名前	時数	① ②	③	④	⑤～⑧	⑨	⑩～⑬	⑭ ⑮	⑯	⑰ ⑱	⑲ ⑳
1	Sさん		B	A	A	A	A	A	A	B	B	A
2	Hさん		C	B	B	B	A	A	B	C	B	B
3	Yさん		B	B	B	B	B	B	B	B	A	A

表4 気付きメモカード

H、12、12、1 (金)

() 名人たんけんたい 世話係 ()		
名人の住所		
氏名	電話番号 ()	
名 前	クラス名	児 童 の 様 子
Aさん	2の1	思うようにできないとくやしがりながらも、いっしょうけんめいでした。名人さんに敬語で話すことができました。
Bさん	2の1	みんなのようすを見ながら友達から習ったりして、いっしょうけんめいでした。名人さんと仲良くなりました。
Cさん	2の1	リーダーとして先頭に立って皆をまとめていました。とても器用で上手にできました。にこにこ顔で楽しそうでした。

2 地域に愛着をもたせるための手立て

(1) 地域にくり返しかわらせる

子どもは普段地域のいろいろな人々や様々な場所とかかわって生活している。地域は子どもたちの成長、発達を支える大切な環境である。しかし、自分とのかかわりで地域を意識している児童は少ない。

地域に魅力を感じさせるためには、地域の人々や様々な場所と直接、しかも意識的にくり返しかわらせることが必要である。地域に住む人々と学習の場とかかわらせることで、共に地域に生きる者として交流を深めることができる。さらに地域の人々のすばらしさ、優しさ、温かさに触れることで地域に住む人へ親しみをもち、地域により一層愛着をもつことができるようになると考える。

(2) 地域人材の活用を図る

生活科は地域に根ざした教科であると言われていることから、必然的に地域性を生かした活動が重視される。

地域を肌で感じ、地域の人材と直接的に触れ合うような体験は、学習への興味、関心を高め、自分の地域への愛着を芽生えさせることになる。

《地域人材活用の手順》 一人人たんけんの単元を通してー

1 名人さがし

① 児童による名人さがし

- ・児童の身近な人（祖父母や親）や近くに住んでいる人から見つける。
- ・家の人から聞いてくる。

② 教師による名人さがし

- ・公共施設等で働いている人から情報を収集する。
- ・地域のイベントに参加し、資料を収集する。
- ・地域をよく知っている教師や知り合いから情報を収集する。
- ・地域の公民館を訪ね、区長さんから情報を収集する。

③ 父母による名人さがし

- ・学年全児童へ名人探しの協力願いの用紙を配布し紹介してもらう。

2 名人に協力依頼

- ① 名人探検の趣旨や日時を知らせ、可能かどうかを確認する。
- ② 協力して下さる方に単元のねらいや方法などを理解してもらうため、協力依頼書を送る。

3 父母への協力願い

- ① 学年全児童の父母へ名人探検の協力願いの用紙を配布し、協力できる方を募る。
- ② 協力できる父母と事前打ち合わせ会をもち、単元のねらいや方法などを理解してもらう。
- ③ 名人探検の当日は、父母は写真係になったり安全面等の配慮をしてもらう。

4 お礼

- ① お世話になった方へ児童からのお礼の手紙と学校側からのお礼状を送る。
- ② 探検発表会に招待する。

Ⅳ 授業実践

1 単元名 はえばる町大すきⅡ (名人たんけん 15 時間)

2 単元設定の理由

(1) 教材観

新学習指導要領の第1・2学年の目標(1)では、児童が自分と身近な人々とのかかわりに関心をもち、それらと主体的にかかわり合い、自分の住む地域に愛着がもてるようになることや、場に応じた適切な行動ができること。また、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもつことができるようになることが求められている。

地域に愛着をもつ児童の育成を図るためには、児童が地域の人々と直接かかわる活動や体験をくり返し行う必要がある。そこで、本校の年間指導計画を見直し、地域の人々とくり返しかわるような地域教材の開発を試み、「はえばる町大すきⅡ」の単元で「名人たんけん」の活動を取り入れる事にした。

一学期の「はえばる町大すきⅠ」の町たんけんでは、地域の公共の場や施設、そこで働く人々とかかわり合う活動を行った。今回の名人たんけんの学習は、直接地域に住んでいる人々とかかわり合う活動で児童、父母、教師がいっしょになって地域に埋もれている名人(人材)を発掘することから始まる。名人の家を訪ね、名人とかかわり合いをすることにより、地域の人々の生きた知恵や知識を学び、人の温かさや優しさにも触れることができ、尊敬や思いやりの心が育つものと思われる。また、それらを通して地域の人々のすばらしさに気付き、地域の人々がより身近に感じられ、地域に愛着を持つ児童が増えるのではないかと考える。本単元を通して「心のふるさと」づくりをしていきたい。

(2) 児童観

わくわくドキドキしながらの探検活動は、ほとんどの児童が大好きである。

児童は一学期の町たんけんでは、こがね森や児童館、文化センター等の地域にある公共の場や施設、そこで働く人々とかかわる活動を行った。地域へとび出しての活動は児童の心を揺さぶるものがあり、探検後の児童は目を輝かせていろいろな気付きを話してくれた。しかし個々の児童を見た時、場に応じた適切な行動ができる児童は少なく、施設で働く人々とかかわり合う活動は十分に出来なかった。

児童の意識調査の中で「自分の思っていることがはっきり言えますか」の質問に対して「はい」と答えた児童はわずか27%でクラスの三分の一にも満たなかった。名人を訪ねる活動では、あいさつの仕方、話の聞き方、適切な対応の仕方等生活上必要な習慣や技能をしっかり身につけさせ、自分の思いを相手にはっきり伝えられるようにしたい。

また、「自分が住んでいる南風原町は好きですか」の質問に対して、地域とかかわる活動前の5月では好きと答えた児童は50%で、好きな理由は全員「友達がいるから」であった。ところが11月の調査では、好きと答えた児童が87%と増え、好きな理由も26%の児童が「人がやさしいから」「にぎやかだから」「いろいろな店があるから」「こん虫がいっぱいいるから」などと地域に関心を示し、地域のよさに気付いてきたことがわかった。しかしながらまだまだ地域に関心をもつ児童は少ないので、名人と十分に触れ合う活動を通して、より身近な地域の人々に感心を持たせ、地域のよさに気付かせ、地域により一層愛着がもてるようにしたい。

(3) 指導観

- ・指導効果を高めるため、他教科との合科的・関連的な指導を図りたい。
- ・意欲的、主体的に取り組ませる手立てとして、児童の思いや願いがかなえられるよう多様な名人を見つけさせ、活動の場が広がるようにしたい。
- ・道徳、朝の会、帰りの会との関連を図りながら、場に応じた適切な行動ができるようにしたい。
- ・名人とかかわる活動においては、十分な時間を確保し、名人との十分な触れ合いを通して地域の人々のよさに気付かせたい。

- ・表5のような多様な表現活動を通して豊かな表現力を高め、意欲的に発表ができるようにしたい。
- ・「よかったよカード」図1の活用を通して、自分のよさ、友だちのよさに気付かせ、共に高め合おうとする力を養いたい。
- ・名人をたずねる活動では、安全面の配慮のため、教育支援ボランティアを活用したい。
- ・評価記録個人カードを活用し、個に応じた支援をすることで児童の変容を図りたい。

3 単元の指導目標

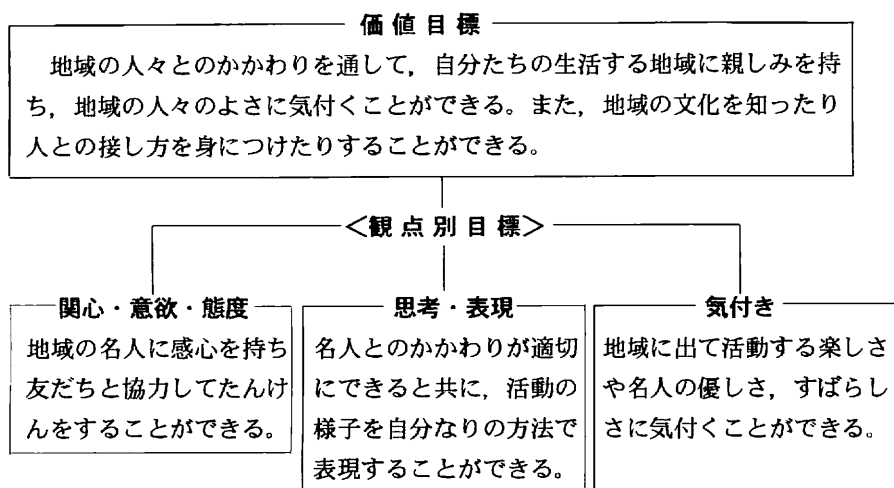
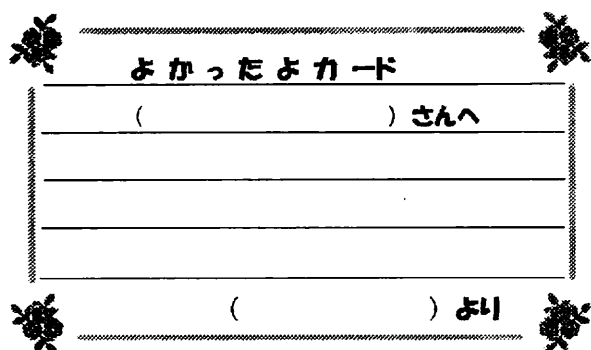


表5 多様な発表の仕方

- ・紙芝居で発表する。
- ・絵本で発表する。
- ・新聞で発表する。
- ・クイズで発表する。
- ・ペープサートで発表する。
- ・身体表現で発表する。
- ・OHCを活用し、写真を見せながら発表する。
- ・使用した材料や道具、作品などを見せながら発表する。

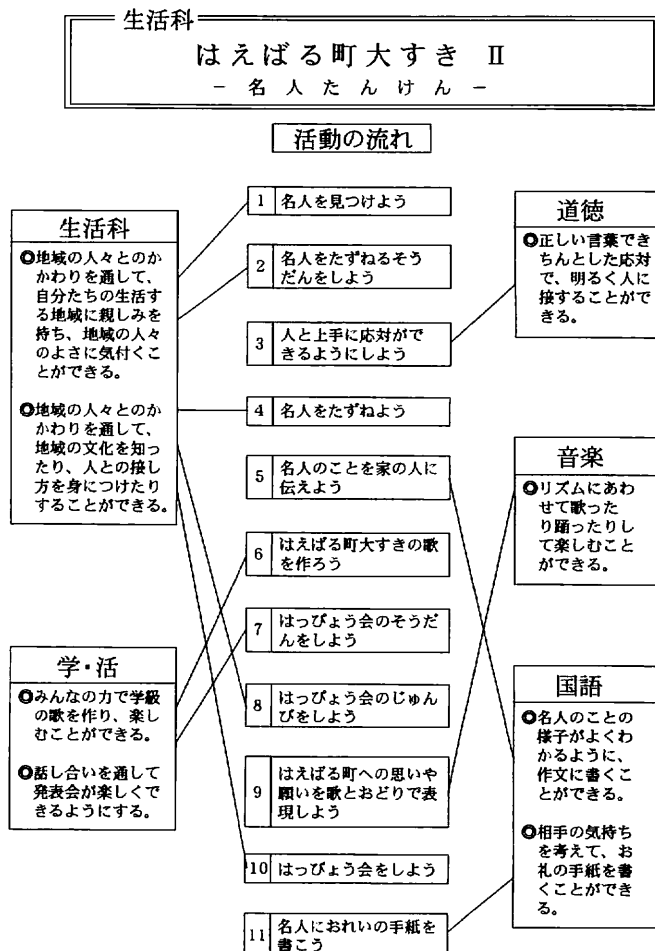
図1



4 本単元で育てたい児童像

- ・みんなと仲良く楽しく活動できる児童
- ・安全に気をつけて行動できる児童
- ・地域の人々に進んでかかわれる児童
- ・人と適切に接することができる児童
- ・自己決定のもとで意欲的に活動できる児童
- ・地域の人に親しみをもち、地域へ愛着をもつことができる児童
- ・名人探検したことを自分なりの方法でまとめ、発表できる児童

5 関連教科の構造図



6 活動計画 (生活 15・国語 2・音楽 1・道徳 1・学活 2)

意識の流れ	活動の流れ	☆支援 ◎留意点	備考
 ぼくのおじいちゃん ○○名人だよ わたしも名人 を見つけてきたいな はえばる 町にはいろいろ な名人が いるんだね どの名人をた ずねようかな  はやく 名人にあ いたいな 家の人に 名人のこと をはやくおし えてあげた いな ○○名人とて もすごいよ それにやさ しいよ 発表会に 名人もし ようたいし たいな ○○さんのほ っぴょうとて もじょうず だったよ はえばる 町っていい ところだね よかったよ 名人さん にお礼が したいな	名人を見つけよう(2) ・名人のことについて話し合う ① ・名人を紹介し合う② 名人をたずねよう(6) ・名人をたずねるそう だんをする T T ③④ ・正しい言葉遣いやき ちんとした態度で人 に接する(道徳) ・名人をたずねる T T ⑤⑥⑦⑧ ・名人たんけんしたこ とを作文に書く (国語) ・「名人たんけん」の 歌を作る(かえ歌) (学活) はっぴょう会をしよう (7) ・はっぴょう会のそう だんをする(学活) ・はっぴょう会の準備 をする ⑨⑩⑪⑫⑬ ・はえばる町の思いや 願いを歌やおどりで 表現する(音楽) ・はっぴょう会をする ⑭⑮ おれいをしよう ・名人におれいの手紙 を書く(国語)	◎自分の身近な人々に目を 向けさせる。 ☆名人のことがよくわから ない子には、家の人から 聞いてこさせるようにす る。(家庭への協力) ☆活動の場が広がるように 多様な名人を見つけさせ るようにする。 ◎学習活動は児童と教師が いっしょになって作り出 すようにする。 ☆自分の思いや願いを持っ て、各自たずねたい名人 を決めさせる。 ◎学年 T T を組んで、同じ 名人グループはいっしょ に行動できるようにする ◎人への応対の仕方、たん けんのきまり、安全面の 指導等は十分に行う。 ☆伝えたい相手を決めてか ら作文を書かせるように する。 ☆歌の歌詞は南風原町の特 徴が出るように考えさせ る。 ☆一学期たんけん発表会の 事を思い出させ、多様 な方法でまとめられるよ うにする。 ◎同じ名人グループでまと めさせるようにする。 ☆みんなによくわかるよう に発表させるようにする ☆お友だちの発表を聞く時 は、静かに聞くようにす る。 ☆地域の人々のよさや友だ ちのよさに気付くように する。 ☆お礼の仕方を考えさせ、 名人への感謝の気持ちが 書けるようにする。	・南風原町まつりや 生活科での南小っ 子まつりの舞台発 表の様子から身近 にいる名人に目を 向けさせ、名人た んけんの単元につ なげる。 ・ワークシート ・ワークシート ・ボランティア 各グループ 1 人 ・ワークシート ・たんけんバツグ ・たんけんグッズ ・カメラ ・作文用紙 ・好きな歌の替え歌 にする。 ・名人やボランティ アの方も発表会に 参加させたい。 ・招待状 ・各グループで決め た材料や道具 ・カセット ・カセットテープ ・作った作品 ・カセット ・カセットテープ ・生活科発表台 ・OHC ・プログラム ・ワークシート

7 本時の指導計画（15/15 時間）

(1) 活動名 「たんけんはっぴょう会をしよう」

(2) 活動のねらい

- ・名人たんけんしたことをふり返り、名人とのかかわり合いの様子をみんなに知らせることができる。
- ・友だちの発表を聞き、名人や友だちのよさに気付くことができる。

(3) 授業仮説

- ・児童の思いや願いを生かした表現活動を取り入れれば、意欲的に発表するであろう。
- ・意欲的に活動に取り組む支援を行えば、名人のよさや友だちのよさに気付くことができるであろう。

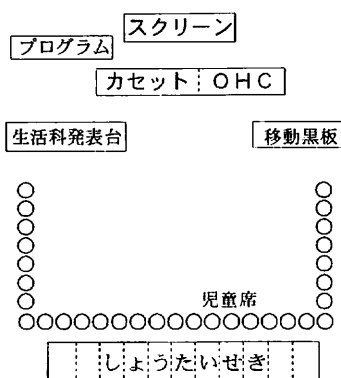
(4) 展開

児童の思いや願いと活動の流れ	・教師の支援 ☆ 評価
1 みんなで歌を歌う 大きな声で歌うから聞いてね この歌ねわたしたちが作ったのよ 2 活動のめあてを確認する めあて ・名人たんけんのことを、みんなにわかりやすく教えてあげよう。 ・名人さんや友だちのいいところを見つけよう 発表がんばるぞ はやくお友だちの発表聞きたいな 3 発表をする ・ほうげん名人たんけんたい ・ゲートボール名人たんけんたい ・おどり名人たんけんたい ・やさい名人たんけんたい ・空手名人たんけんたい はやく発表したいな 空手名人かっこいいね 4 感想を発表する 発表上手だね 5 みんなで南風原町音頭を踊る またたんけんしたいな 6 名人にお礼をする	・歌を歌って雰囲気作りをする。 ・自信を持って、大きな声で歌わせるようにする。 (指揮は児童にさせる) ・めあてを達成するためにはどうすればよいかを考えさせる。 ・発表する時は、はっきりと大きな声で、聞く時は、静かに最後までしっかり聞くことを約束する。 (目、耳、口、ハートを働かせる) ☆自分の思いを自分なりの方法で発表することができる。(思考・表現) ・発表は自分たちで進められるようにする「次は○○たんけんたいです。お願いします。」 ・発表の後は、拍手が出るような雰囲気作りをする。 ・機器の操作で手間取ったら教師が援助する。 ・友だちの発表が静かに聞けるように配慮する。 ・その子なりの気付きをほめてあげるようにする。 ☆名人や友だちのよさに気付くことができる。(気付き)

(5) 準備

- ・発表物（各グループ）
- ・OHC ・カセット
- ・移動黑板・プログラム
- ・生活科発表台

(6) 場の設定（視聴覚室）



8 児童がかかわった名人

- ・ほうげん名人
- ・ゲートボール名人
- ・おどり名人
- ・やさい作り名人
- ・空手名人
- ・あみもの名人
- ・りょうり名人
- ・虫かご作り名人
- ・花を育てる名人

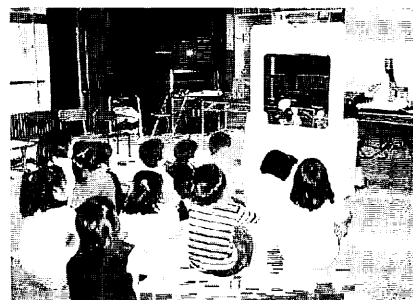
写真1 ゲートボール名人とかかわる子供達



写真2 空手名人とかかわる子供達



写真3 ペーパーサートで発表している様子



9 実践を終えて

(1) 単元全体を通しての考察

本単元では、地域に住んでいる名人とかかわり合うことで地域の方々のすばらしさ、優しさ、温かさに触れ、地域に愛着が持てる児童の育成をめざして、学習過程や場の設定などの工夫を試みた。

学習後の「ふりかえりカード」で名人とかかわる活動は100%の児童が「とても楽しかった」と答えている。また、「はえばる町は好きですか」の質問に対して、地域とかかわる学習活動前の5月には「好き」と答えた児童が50%だったのに対して、本単元終了後の12月では100%であった。74%の児童は「とても好き」と答えている。好きな理由として「町にはいろいろな名人がいるから」「人が優しいから」「おもしろい場所だから」などを上げている。本単元の学習を通して児童が地域に関心を示し、地域のよさに気付いていることがわかった。また、地域がますます好きになったこともわかった。

より身近な地域のおじいちゃんおばあちゃんを名人にすることで、より温か味のある学習が展開された。また、それぞれの分野で得意なものを直接教えていただき、地域の方々のすばらしさ、優しさ、温かさを体感することができた。名人と触れ合う活動を通して名人とすっかり親しくなり、学習活動後も名人の家へ遊びに行ったり、編み物を習いに行ったり、踊りを習いに行くなど何度か名人の家を訪ねた児童もいた。このようにくり返し地域とかかわることで地域の人々と触れ合う楽しさがわかり、地域への愛着が芽生えてきた。名人に年賀状を出した児童も多く、人との触れ合いはこんなことから始まることを実感した。今後も地域の方々と継続的なかわりが持てるような支援をしていきたい。

(2) 児童の変容（Tさん）

本単元学習前の意識調査では、Tさんは「自分が住んでいる町は好きでない」と答えている。名人を見つける活動の時は、「どんな人がいるかわからないからいやだ」とか「おもしろくない」などつぶやき、学習活動にほとんど興味を示さなかった。

名人を訪ねる計画では、初めのうちはどの名人を訪ねようかそうとう迷っていた。担任の声がけと友だちとの相談で空手名人を訪ねることになった。次回の計画では「空手を習ってみたい」と言い出し、「早く名人に会いたい」などとつぶやくようになった。名人と触れ合っている時は始終笑顔が絶えずとても楽しそうであった。たんけん発表会の時はリーダー的存在で、持ち前の明るさを発揮した。

評価記録個人カードを活用し、教師が誘いや励ましの言葉をかけたり、頑張っている姿を賞賛するなど適切な支援をすることで、Tさんは意欲的に学習に取り組むようになった。

ふりかえりカードに「名人に空手を教えてもらって嬉しかったです。名人さんの空手はカッコ良かったです。名人はとても優しくてまた探検したいです。」と書いてあった。Tさんの変容ぶりは見事であった。Tさんは名人とかかわり合う中で、地域の人に親しみを覚え地域が好きになったと言える。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・地域の方々に参加していただくことにより、より意欲の高まった学習になった。
- ・国語、音楽、道徳、特活との合科的・関連的な指導を図ったので、名人と触れ合う活動時間が十分に確保でき、指導効果を高めることができた。
- ・一人ひとりを見取る評価に努めたため、個に応じた支援ができた。
- ・地域人材の発掘を図り、名人と主体的にかかわることで、地域に愛着をもつ児童が増えた。

2 今後の課題

- ・地域人材を組み込んだ年間指導計画の作成
- ・児童と名人が共に活動できる探検発表会の持ち方の工夫

<主な参考文献>

嶋野道弘編著	『新小学校教育課程講座 生活』	ぎょうせい	1999 年
山本政男編集	『生活科校外活動読本』	教育開発研究所	1992 年
今谷順重編集	『子どもが生きる生活科の授業設計』	ミネルヴァ書房	1991 年